下顎がこの位置に来れば、生体と同じ運動をすることになるのに …
BGN 咬合器は下顎を思う位置に再現します。

BGN 咬合器の調節 Map

永田和弘　　2010.9.12

BGN 咬合平面板を用いて、模型を咬合器に装着 →

前方運動で臼歯部が咬合乖離して、前歯部切端が咬合する → Yes

↓ No

① （大臼歯部がつかえて前歯部が乖離する）

非作業運動時に、第二大臼歯の早期接触はない → Yes

↓ No

② （非作業側の第二大臼歯の早期接触あり）

作業側歯列の犬歯・小臼歯は前後的に調節の必要なし → Yes

↓ No

④ （犬歯・小臼歯を前後的に調節したい）

作業側歯列の第二大臼歯は上下的に調節の必要なし → Yes

↓ No

⑤ （第二大臼歯を上下的に調節したい）

調節終了

①～⑤は左下咬合器の図中の番号

解決策

①前方矢状顆路傾斜度を大きくして第二大臼歯を下げる

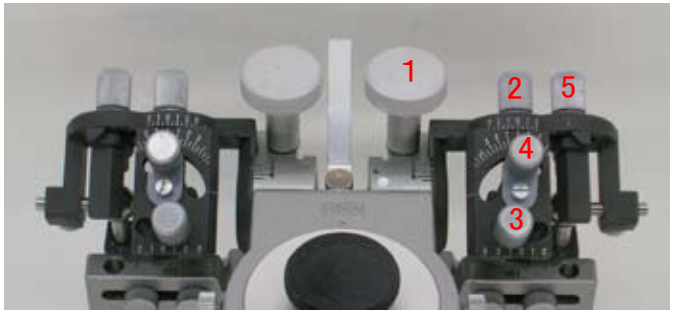
②側方顆路傾斜度を大きくして非作業側の第二大臼歯を下げる

④作業側 Rear Wall を調節して、作業側歯列を前後させる

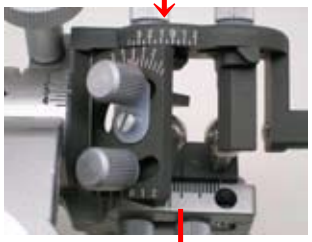
⑤作業側顆頭を上下して作業側第二大臼歯を上下させる

例えば、右歯列の作業側の調節を紹介します。

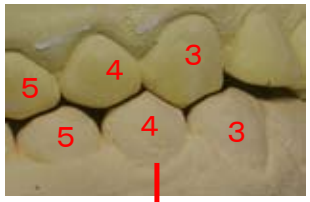
調節前の咬合器

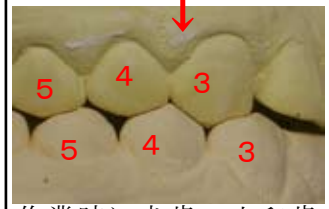


1. 矢状顆路傾斜度　30°
2. 非作業側顆頭の上下規定（Guichet 角）　0°
3. 非作業側顆頭の内外規定（Bennett 角）　15°
4. 作業側顆頭の前後規定（Stuart 角）　0°
5. 作業側顆頭の上下規定（Bennett Lift 角）　0°



非作業側早期接触を解除して生体どおりになった





作業時に犬歯・小臼歯の咬合は緊密になった

作業時に第二大臼歯を生体どおりに咬合させた

← 調節前

← 咬合器調節

← 調節後の結果